



水産情報速報版

H21. 12. 11. No1267
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行＝指導部漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 21年度 県農林水産業功労者表彰 3氏が栄えある受賞

県や農林水産業の関係団体で構成する静岡県農林水産業振興会（会長：川勝平太知事）では、11月4日県庁にて、21年度の県農林水産業功労者の表彰式を執り行いました。

水産業部門6名の表彰受賞者のうち、漁業関係では本会並びに県信漁連が推薦した、外山廣文氏（田子の浦漁協組合長） 谷澤輝雄氏（大井川港漁協組合長） 近藤 安氏（伊豆漁協安良里支所担当理事）の3氏が、それぞれ地域漁業はもとより、広く本県水産業の振興発展に貢献した功績が認められ、その榮譽に輝きました。ここに受賞された皆様に、心よりお喜びを申し上げます。

2. 漁協再編強化の継続的な取り組みを確認 —21年度 県漁協組合長会議—

本会では、11月26日静岡市・クーポール会館において、県内の漁協組合長や水産関係団体役員等 約60名の参加を得て、21年度の県漁協組合長会議を開催しました。

まず、本会橋ヶ谷会長の主催者挨拶に続き、来賓を代表して県産業部の日向水産局長から祝辞が述べられた後、早速協議に入りました。

20年度の要望事項に対する措置状況、21年度の水産予算要望事項に対する措置状況について実行報告をした後、21年度の水産施策要望（①地場水産物流通・消費の活性化、②県水産長期計画策定、③大型クラゲ漁業被害対策）及び22年度の水産予算編成要望（水産関係団体が行う指導・委託事業に対する支援、②水産業経営体セーフティーネット構築費助成事業予算の確保、③漁業者及び漁協の経営健全化を図るための金融支援、④県下漁協水産物提供による漁協活性化）について上程し、協議・検討の結果、それぞれ承認されました。

本件については、翌27日開催の同会議・実行委員会にて、整理された結果を日程調整の後、速やかに関係部局を窓口として要望することになりました。

また、報告・協議の事項では、県漁連から「漁協再編強化の取り組みに」について説明があり、以下の対策が会場参加者に確認のうえ、承認されました。

- 1) 本県の漁協再編強化への取り組みはいまだ途半ばであることから、引き続き漁協合併等を積極的に推進していく。
- 2) 漁協系統組織の基盤強化のため、全国運動に呼応して、国の新規事業「漁協系統経営再生対策」の創設について、系統組織をあげて要請活動を展開していく。

更に県信漁連から「経営改善の取り組み」と題した説明も併せ行われました。

その後、この機会を捉え、全漁連の漁協運動功労者表彰受賞者として本県では、橋ヶ谷氏（小川漁協長）、宮原淳一氏（由比港漁協長）の両氏に、全漁連の長屋常務理事より褒状の伝達が行われました。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

3. 県漁連・県信漁連が、創立60周年を祝う記念式典を開催

本会と県信漁連は、11月26日静岡市・クーポール会館にて、同日開催の県漁協組合長会議の終了後、創立60周年記念式典を漁協組合長や水産関係団体60名を招き執り行いました。式典は、物故役員への黙とうの後、主催者の両連合会を代表して本会の橋ヶ谷会長から「課題山積の漁業界に、更に一段の厳しい状況が求められている中で、健全な水産業や漁村を維持させていくために、最大限の努力を図りたい」との挨拶が行われました。

引き続き来賓挨拶が、県産業部 堀川部長、全漁連 服部会長（長屋常務代読）、農林中金 永野支店長からそれぞれ60周年を祝う旨の言葉が述べられました。

その後、記念行事として、全漁連 長屋常務より「わが国漁業の再生と新たな運動方針の実践について」をテーマに記念講演が行われました。

4. 21年度 第6回天草共販入札会を開催

本会では、11月25日伊豆漁協本所にて、天草共販の第6回入札会を開催しました。

6回までの取扱累計は数量111,411kg、本数4,475本（前年比6,103kg、246本増）、取扱金額100,312,327円（同14,743,653円増）、平均単価9,004円（同878円増）となりました。なお、今回の入札結果は次のとおりです。

▽入札数量：9,900kg（396本） ▽取扱金額：6,836,175円

▽平均単価：6,905円（10kg当たり）

▽最高入札額：9,880円（10kg当たり＜生産地＝仁科・銘柄＝汐岡まくさ一等＞）

なお、今回で本年度当初に予定をしていた共販入札会は、すべて終了しました。

5. 2008年漁業センサス 海面漁業就業者5年間で80人増加（調査結果その②）

前号に続き、2008年漁業センサスの海面漁業調査における結果の概要を、以下のとおりお知らせします。

<●漁船>

調査月日現在で保有している総隻数は3,813隻で、前回に比べ466隻（10.9%）減少しました。種類別にみると動力漁船が2,588隻（構成比67.9%）、船外機付き漁船1,176隻（同30.8%）、無動力漁船49隻（同1.3%）で、前回に比べそれぞれ13.8%減少、0.2%増加、52.9%減少しました。また、動力漁船をトン数規模別にみると100ト～200ト未満の階層で横ばい、それ以外の階層は減少しました。

<●漁業就業者>

漁業就業者数（満15歳以上、過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事者）は、6,505人で、前回に比べ80人（1.2%）増加しました。特に新規漁業就業者数は、70人で、うち個人経営体の自営漁業のみの者は20人でした。

また、性別にみると男子は6,140人（構成比94.4%）、女子は365人（同5.6%）で、前回に比べ男子は3.9%増加、女子は29.1%減少しました。男子漁業就業者を年齢階層別にみると、20～39歳の就業者は1,053人、40～59歳は2,080人、65歳以上は2,151人で、前回に比べ65歳以上の就業者のみが66人減少しました。

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう